

## ■心臓血管外科

### 1. 2021年度の目標及び方針

- ① High risk 患者の手術比率が年々高くなっているが、今まで同様の良好な手術成績の維持を目指す。
- ② 大血管手術における脳血管障害の頻度を下げる。
- ③ 2020年同様、深部感染症ゼロを維持する。
- ④ 心臓血管外科専門医の育成。
- ⑤ 継続的な主要学会での発表と論文化を進める。

### 2. 2020年度評価

- ① High risk 患者の手術比率が年々高くなっているが、今まで同様の良好な手術成績の維持を目指す。  
→NCD のデータからは、患者リスクに比べ良好な手術成績が得られている。全国的に見ても良好な成績であった。しかし、大血管手術における脳血管障害の頻度が高いことが問題である。
- ② 改善したとはいえ、深部感染症ゼロは未達であり、深部感染雄根絶を目指したい。  
→NCD データによれば、2020年の当院心臓血管外科手術における深部・縦隔感染症はゼロであった。
- ③ 心臓血管外科専門医の育成。  
→川井田医師の専門医受験は果たせなかった。
- ④ 継続的な主要学会での発表と論文化を進める。  
→継続的な学会発表は継続できているが、論文化は進んでいない。

### 3. 特徴

米国で10数年にわたり心臓外科を修練・実践していた外山雅章医師が1983年に心臓血管外科を開設以来、米国の医療の良い部分を十分取り入れ、専門性を重視し安全で確実な診断と治療を行っている。2013年からは亀田総合病院で心臓外科の研修(1991年～1995年)を受けた田邊大明医師が統括部長として赴任し、さらなる手術レベルの向上に励んでいる。

医師及び看護師・臨床工学士も病院のすぐ近くに在住し、24時間・365日いつでもベストの治療が出来ることを基本としている。

### 4. スタッフ構成・紹介

[→ 亀田メディカルセンターホームページ スタッフ紹介へ](#)

### 5. 診療内容

いずれの領域においても、術式の選択は患者さんとご家族への十分な情報提供と話し合いのもと決定している。

- 虚血性心疾患：単独冠動脈バイパス術はほとんど全例心拍動下オフポンプバイパス術で行われており、低侵襲化がなされている。また長期的予後（グラフトの長期開存）の改善を目指す視点から、グラフトの開存性を高めるためほぼ全例に動脈グラフト（両側内胸動脈、胃大網動脈など）

を使用している。

- 弁膜疾患：僧帽弁はもちろん、大動脈弁も弁形成術（自己弁の修復・温存をはかる手術）を第一選択としている。もし弁形成が困難な場合は弁置換術を行うことになるが、患者さんへの十分な情報提供のもと、人工弁の選択を行っている。MICS(小切開心臓手術)も適応を拡大中で、TAVR(経皮的動脈弁留置術)を含め、基本は Quality of Life(QOL)を優先する手術の推進であり、ますます低侵襲手術が広がっている。
- 不整脈手術：心房細動に対しては積極的にメイズ手術を行っており、僧帽弁疾患にとどまらず弁形成術あるいは生体弁による弁置換術との組み合わせにより QOL の向上（ワーファリンフリー）に寄与している。また、左心耳切除も積極的に行っており、僧帽弁疾患に限らない大動脈弁を含めた弁膜症や冠動脈疾患に伴う冠動脈バイパス術あるいは大血管手術においても、併施率が高まっている。
- 大動脈疾患：各症例における TEAVR/EVAR の低侵襲性と、open 手術の確実性を慎重に評価し、治療方針を決定している。open 手術の場合も、脳合併症や脊髄合併症の発生率を極力低下させる方法を採用している。
- その他：末梢血管手術で、下肢の血行再建や頸動脈内膜剥離術も行っている。下肢静脈瘤に対しては、日帰りレーザー治療を導入し、多くの患者様から好評をいただいている。

## 6. 手術実績

病院の在る地域の特殊性（高齢者、未治療糖尿病、高血圧の患者など）から全身状態の悪い患者さまが多いことが特徴。NCD のデータからも明らかであるが、対象とする患者さんのリスクが比較的高いが、手術成績は予測死亡率や合併症発生率を大きく下回っている。冠動脈バイパス術は緊急手術を含め死亡ゼロの年がほとんどである。弁膜疾患の手術では、僧帽弁形成術とメイズの手術の合併により QOL の高い結果を出しており、手術死亡はゼロである。大血管では緊急手術となる A 型解離の手術以外では脳合併症や手術死亡はほとんどなく良好な結果である。

## 7. 学術関係

田邊 大明

- 座長：『スポンサーセミナー2：僧帽弁形成術のための弁輪骨格構造の解剖：Trigone を突き止める！』  
第 183 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会  
2020 年 7 月 16 日
- 座長：ビデオ演題 6『僧帽弁・三尖弁』  
第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会  
2020 年 8 月 17 日より 2020 年 8 月 19 日までのもの

加藤 雄治

- ポスター発表：『当院におけるステントグラフトを用いた外傷性胸部大動脈損傷の治療実績』  
第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会  
2020 年 8 月 17 日より 2020 年 8 月 19 日までのもの
- 発表：『Open stent graft を用いた全弓部大動脈置換術の中期治療成績』

第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会

2020 年 10 月 29 日より 2020 年 11 月 1 日までのもの

川井田 大樹

- 学術論文：『大動脈基部置換術を要した Freestyle 弁の再手術』  
日本心臓血管外科学会雑誌 49 巻 4 号 (2020)
- ポスター発表：『AVR 時に併存する中等度以上の機能性 MR に対する僧帽弁手術に関する検討』  
第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会  
2020 年 8 月 17 日より 2020 年 8 月 19 日までのもの
- 発表：『急性 A 型大動脈解離に対する上行、部分弓部置換と全弓部置換の早期、遠隔期成績の比較・検討』  
第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会  
2020 年 10 月 29 日より 2020 年 11 月 1 日までのもの

山崎 信太郎

- 発表：『ゴア TAG コンフォーマブル胸部大動脈ステントグラフトアクティブコントロールシステムのデプロイ時のマイグレーション』  
第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会  
2020 年 10 月 29 日より 2020 年 11 月 1 日までのもの

保坂 公雄

- 発表：『弁輪部膿瘍を伴う PVE に対し牛心膜を用いて左室流出路を再建し、Bentall 手術を行った 1 例』  
第 183 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会  
2020 年 7 月 16 日
- ポスター発表：『当院における破裂性腹部大動脈瘤症例の治療実績』  
第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会  
2020 年 8 月 17 日より 2020 年 8 月 19 日までのもの
- 発表：『巨大心房を伴う三尖弁閉鎖不全症に対し redoTVP、Atrioplasty を施行した 1 例』  
第 184 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会  
2020 年 11 月 28 日

文責：田邊 大明